

2019.9/4~5.後立山縦走 山行記録

柏原新道登山口～爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳～八峰キレット～五龍岳～唐松岳～不帰嶮～白馬鑓温泉小屋
～猿倉荘下山

[メンバー・M、他1名A氏]

[ルート・タイム]

9月4日(水) 23:50 京都駅より、アルピコ高速バス乗車

9月5日(木) 6:18 扇沢着 晴(冷池山荘着後約30分間大雨) 総行動時間5時間59分

柏原新道登山口発(6:51)～種池山荘(10:18着 休憩27分 10:35発)～爺ヶ岳～
冷池山荘着(12:50)

当初の計画では、初日に八峰キレット通過しキレット小屋に泊まる予定であったが、夜行バスで睡眠不足もあり、もみじ坂の急騰が大変つらく感じる等体調不良にて無理をせず、爺ヶ岳山頂も行かず裾をまいて歩くのみ。

本日は冷池山荘泊と予定変更する。冷池に到着とほぼ同時に大雨が降るも、しばらくすると止む。

9月6日(金) 快晴: 総行動時間 9時間33分

冷池山荘発(5:17)～布引山(6:09着 休憩6分 6:15発)～鹿島槍ヶ岳南峰
(7:03着 休憩15分 7:18発)～北峰(7:45着)～分岐(8:05 休憩10分・8:15発)～
八峰キレット通過～キレット小屋(9:30着 休憩30分コーヒータイトム 10:00発)～
口の沢のコル(11:08着)～北尾根の頭(11:37着 昼食休憩23分・12:00発)～G7・G5・
G4の小岩峰～五龍山荘(14:40着)

八峰キレットはさほど難しくなく通過できたが、キレットを超えたところのキレット小屋から五龍迄の間が約60°の傾斜のある岩稜地帯の連続で、ところどころに鎖や梯子などあるものの、3点確保のボルダリング状態でよじ登り歩きする事約4時間。いつまでこの状態が続くのかと、かなりきつかった。

私は、5年前このコースを反対の五龍から歩いたことがあり、その時はG5等の下りが怖かったことを覚えているが、今回は当時より経験を積んでいることもあり怖さはなかったものの、体力的にかなりきつく、経験とともに歳も増えてきていることを痛感した。

本日、唐松まで行きたかったが、唐松手前も牛首などの岩稜地帯があり、夕方に危険な場所を通過するのは避ける方が賢明と考え、五龍山荘泊まりとする。

9月7日（土）快晴：総行動時間（11時間10分）

五龍山荘発（4：40）～唐松岳頂上山荘（7：08着 休憩22分 7：30発）～唐松岳（8：00着）～三峰・二峰・一峰通過～不帰キレット（10：33着）～天狗の大下り：反対から登ったので天狗の大登り・山頂（11：40着 昼休憩17分 11：57発）～天狗山荘（12：59着 休憩26分 13：27発）～鑓温泉分岐（13：50）～白馬鑓温泉小屋（15：50着）

初日コース短縮したことのしわ寄せがきて、本日は不帰の剣の難コースを含む長時間歩き。朝から気合を入れて歩き始める。

不帰第二峰北側の下りコース、このコースは相棒のA氏は4年前反対側から歩いている。鎖をつかい垂直気味の岸壁を下る場所も幾多とあり、クライミングをかじっておいてよかった、と思った。ここはしんどさというより、神経集中して歩かざるを得ない為、あっという間に時間が過ぎ去る。

次に天狗の大下り。私達にとっては大登り！ガレガレの岩を真夏のような太陽が照りつける中、必死で歩く。これはきつかった。でも、ここを通過すれば本日のメインコースは終わることになる。

天狗山荘に着いた時、はじめて雪渓を見る。昨年積雪で小屋が一部倒壊し、再建工事中で最近売店とテント場のみ営業し始めた。来年あたりには、素泊まりでもいいので宿泊も再開したいと、売店の女性が話されていた。雪渓から流れる水で冷やしたCCレモンを一気に飲み干し、しばらく休む。

ここから白馬鑓温泉小屋までは楽チンな下りと思っていたが、それが大間違い。ガラガラの石ころだらけで、雪崩のあとの谷間をそのまま登山道にしてあるだけのような状態で、小屋の近くでは又鎖場。岩もよく滑り最後の最後まで気の抜けない道であった。しかし、この道の両脇はちんぐるまや何やかやの花の最盛期を過ぎたのが沢山あり、お花の時期はさぞかしきれいだろうと思った。

白馬鑓温泉小屋に着いたのは、午後4時前。早速待望のお風呂に入る。露天ぶろは男子ばかりで、いくら水着をつけていたとしてもあの中に割り込んで入る勇気はない。時間を区切っての女性専用の内風呂は広くゆったりしており、乳白色のお湯に体を沈めた時はもう最高！

9月8日（日）快晴：総行動時間（4時間）白馬鑓温泉小屋（5：40発）～猿倉荘（9：40着）

湯けむり漂う露天風呂に浸かる人々を横目で見ながら、帰路に就く。見れば露天風呂に男性に交じり紅一点、妙齢の女性がビキニの水着で湯に浸かっている。なんとなく彼氏らしい人が守っている様な感じ…私なんか水着で入っていったら「このお婆はんなんや！」と睨まれるところだった。

あんなこんなでよそ見ばかりしていたら、迷うはずの無い下山道で変ところに行きそうになる。温泉のお湯があふれ出し、そこらこらが硫黄の成分で固まって溶岩道路状態。あたりは梅鉢草みたいな白い小さな花が一面に咲いている。しかし見惚れるているわけにはいかない！慌てて軌道修正し気を引き締めて歩きなす。ここは温泉だけを楽しみに来ている方も多い様子で、皆さんのんびりしておられた。ひと氣のない時期に来て密かに露天風呂に入りたいが、それはいつか…苦しかったことはもうすっかり忘れ、また来年のコースに思いを巡らす懲りない私達であった。

このコースは、昨年に行く予定であったが、台風9号の襲来の為中止。二年越しの思いがやっとかなった嬉しさと共に、①初日は無理をしない。②危険なところはできるだけ体力のある午前中に歩く。この基本が身にしみてわかった。初心に立ち返り、学ぶべきものが多い山旅であった。

応援してくれた家族や先輩方、なにより相棒のA氏に心より感謝します。

M記